

日本くすり教育研究所と西武薬剤師会の共催により、『第2回おくすり教育推進協議会』を開催

2021年7月10日、日本くすり教育研究所と西武薬剤師会の共催により、『第2回おくすり教育推進協議会』を開催しました。

今回は「おくすり教育」と「薬物乱用防止教育」のモデル授業（小学校高学年対象）を、実際の小学校の教室での授業風景の録画とパワーポイントを用いて、Zoomによるリモートで発信し、さらに「今話題の医療用大麻、大麻の薬物対策」に関する情報を提供しました。

「お薬教育推進協議会」 第2回講演会 内容

日時；2021年7月10日（土）18：00～20：00

Zoomにてリモート開催 参加者 63名

講演1 『おくすり教育』モデル授業（小学校高学年対象）（加藤先生）

実際の小学校の教室での授業風景の録画とパワーポイントにて

「くすりを使わずに病気やけがが治ったことがありますか？くすりってなに？」との問いかけから、

●薬を飲むときのルール、自然治癒力、免疫力について

病気やけがの時、もともと自分のちからで「なおす力」を持っており、特に健康な心と体は「なおす力」が強いことを強調、薬の働きとしては早く健康な状態に戻ることを助けるためであり、元の状態よりよくすることではない。

●剤形について、大きなカプセルの模型やいろいろな剤形の写真を用いて、くすりには様々な「仕掛け」が施されている説明の後、カプセル吸着実験や鉄剤の変色実験を行い、コップ1杯の水で飲むというルール1を説明。

●薬の体内での動きをCG動画とグラフで示し、のむ時間とのむ量がとても大切であるというルール2を説明。

●副作用について、薬は「なおす作用」と「それ以外の作用」を持っていること、たいていの薬は副作用が出ないように作られているが、出てしまったときは対処が必要。薬を使うときに相談する人は医師、薬剤師であること。

●健康大原則について、「適度な運動、栄養バランスのとれた食事、すいみん」を子供たちと復唱。

※質疑応答（福田：今までの授業で困ったことはありましたか？）

受講者；パワポの使い方に困り、都薬作成のものを使って行った。

加藤；使い慣れていきましょう。ビデオや実験など取り入れて授業に変化をつけましょう。

薬剤師が授業をすると、こんなことができるという宣伝にもなります。

講演2 『薬物乱用防止教育』モデル授業（小学校高学年対象）（加藤先生）

実際の小学校の教室での授業風景の録画とパワーポイントにて「薬物から自分を守る」と題して。

●こんな時に使う薬は？虫刺され、くしゃみ、太った、悩みがある、など示し、薬を使うものと使うものではない区別について、薬の決まりを守って病気やけがの時にのみ正しく使うことが大切と強調。

●「薬物乱用」について、1回でも乱用となることの説明。イチゴの画像から、それを見て脳が猛スピードで情報を伝え、視覚刺激から、言葉、運動、記憶、という処理を行っていること、その脳が薬物によって壊されてしまう恐ろしさを、お年寄りが歩いているところに遭遇した状況の正常な脳の働きで説明。これを「素敵な素敵な素敵なみんなの脳」と表現し、壊されてしまうと様々な指令を出す脳の回路は元には戻れないことを説明。薬物乱用によって起きた車の衝突事故などはむしろ、薬物をつかっていたら、思考力、記憶、運動機能などうまく働かず、当たり前になってしまおうと考えるべきで、本当に恐ろしいことなのだと説明。

●依存症について、一回使う→みせかけの元気→効果が切れると体がおかしくなる→量が増える→イライラ→欲しくてたまらなくなる→繰り返し使う、の悪循環から抜け出せなくなり、さらに本当の恐ろしさは、夢を奪ってしまうこと。

●脳が壊されるということについて、脳は一瞬のうちにいろいろな指令を出していることを、「すてきな〇〇になった話」を例に説明。脳が正常に働いていることで、知識知恵、行動運動、その他努力する姿勢を繰り返し脳にためていった結果、「すてきな〇〇になった」という話。このすてきな夢を、薬物を使うと奪われてしまう。

●薬物から自分を守るために、知っておいて欲しいこと。

・薬物に手をださない・誘いに騙されない・断る勇気をもつ・一回でも乱用となる・元気なときに薬はいらない、病気じゃない、けがじゃない、と思うこと。

●自分を勇気づけるポイントは、「あなたが好きなことや、得意なことは？」「あなたの将来の夢や目標は？」といったことを考え、大切にしていることを思い出すこと。心の健康五か条（・自分を大切に・物事を前向きに考える・目標に向かって努力する・トラブルにくよくよしない・家族友人と何でも話し合える）について説明し、最後に薬物乱用防止教育には薬剤師が必要であることを強調。

※質疑応答（福田；授業で良かったリアクションはありましたか？）

受講者；自己肯定感を持ってもらいたい話をするとき、担任の先生にふって見たら、先生は小さい頃、こんな風に思っていたよ、という話が聞けて、子供たちがへえそうだったのか、というようなリアクションがみられた。

受講者；中学生の保護者と先生対象の話の時、カフェイン含有のエナジードリンクが問題になっていることを挙げて、常習性が高く日々の量が増えてしまう話をしたら、共感をえた

加藤；薬物乱用の話のなかで時間があれば薬物乱用頭痛など、オプシンのような形で用意しているが、受け止め方にも注意が必要。

★情報提供 「今話題の医療用大麻、大麻の薬物対策について」（船田先生）

我が国の薬物対策として、生涯経験率は諸外国と比較して低く、ある程度は成功している国であるという認識で問題ないのだが、国際情勢として、嗜好品ではなく医薬品として大麻の成分を含むものをルールとして変えましょうという流れができています。厚労省で、「大麻の薬物対策のあり方検討会」*というものが、令和3年1月から6月の間に、8回開催されている。柱は4つあり。

1. Δ⁹-THC に着目した規制に見直す 2. 製造 3. 罰則規定 4. 再乱用防止、社会復帰

現在大麻規制について、大麻成分は医薬品としては認められていない。所持罪のみ有り、使用罪はない。見直しの方向にある。当然使うべきではないものだが、医薬品としては我が国でも現実的なものとして、現在有識者の提案として協議が進んでいるところである。

* https://www.mhlw.go.jp/stf/shingi/other-syokuhin_436610_00005.html

*

質疑応答

受講者；CBD だから大丈夫というような化粧品などの商品があるようだが？

船田；CBD に関しては、精神作用はないので基本的には乱用にはなり得ないが、健康への安全性については、有害物質を含まないという保証はない。THC 成分が規制の対象。どのように流通を許可するかが課題となろう。

受講者（学生）；小学生の時に薬物の授業を受けた記憶はあるが、薬剤師がこのように行っているということは薬学部に入って初めて知った。

おわりに アンケートのお願い

お薬教育協議会 企画運営委員の紹介

有識者；加藤哲太（日本くすり教育研究所）・船田正彦（国立精神・神経医療研究センター精神保健研究所）

西武薬剤師会；中島正登（東久留米市）・米澤裕二（西東京市）・城田由紀子（清瀬市）

中田絵美子（東村山市）・福田早苗（小平市）